

思春期の自死予防—12歳以上の受診者全員に抑うつ状態と自死リスクのスクリーニング (PHQ-9A +ASQ) を

いずみ 泉 のぶ お 夫

キーワード：12歳以上，抑うつ状態，自死リスク，スクリーニング検査，かかりつけ医

要 旨

自死は，死因構成で10～14歳は28%，15～19歳は51%を占め1位である。自死未遂は完遂の50～100倍いるとされ，後の再企図の大きなリスクとなる。自死児の多くは，その数か月以内に多くは身体症状を主訴に医療機関を利用し，自死念慮は短刀直入に問わなければ普通，自らは口にしない。米国小児科学会は12歳以上の受診者全員に抑うつ状態と自死リスクのスクリーニング検査，PHQ-9A と ASQ（かかりつけ医は両者を，救急外来はASQのみを）行うことを推奨している。

日本でも2022年に自死予防に向けた，かかりつけ医と精神科，心療内科との連携を評価する「こころの連携指導料」が新設された。

はじめに

島根県は自死遺族の思いに寄り添い，2013年より「自殺」を「自死」と表記することにした。現在，“自死”遺族の自助グループのある都道府県は少なくとも22になる。私は思春期の自死完遂者や未遂者の経験はない。しかし，小児科医3年目に県外の大学病院に勤務し，学外の外来診療に出ている際，担当看護師の高校生の息子さんが自死された。お悔みに伺った時，「普段と変わらず，

何も心配していなかったのに突然・・・」と言われたことに強い印象を受けた。

島根県には「しまね分かち合いの会・虹～自死遺族のつどい～」があり，数年前，一般市民との交流部門に参加させていただいた。前述の印象を述べると，子どもを亡くされた遺族もおられたが，同様のことを述べられる方が多かった。

9月10日～16日は自死予防週間とされ，その謳い文句に，(1)周りの人の様子が「いつもと違う」と気付いたら，(2)「どうしたの?」「疲れていない?」と声をかけ，(3)その人の話をよく聴いてください，とある。注意する様子のポイントもあるが¹⁾，親が声掛けしても，多くは否定される²⁾。

Nobuo IZUMI

出雲市

連絡先：〒693-0021 島根県出雲市塩冶町909-3

出雲市